

京都大学大学院医学研究科規程

第1 専攻

第1条 本研究科の専攻は、次に掲げるとおりとする。

医学専攻

医科学専攻

社会健康医学系専攻

人間健康科学系専攻

2 前項の専攻は、博士課程とする。ただし、社会健康医学系専攻の前期2年の課程は、専門職学位課程とする。

第1条の2 京都大学通則（以下「通則」という。）第53条の2第3項ただし書の規定による標準修業年限は、1年とする。

2 前項の規定は、医学研究科会議（以下「研究科会議」という。）が定める資格又は要件を具備する者について、研究科会議が定める教育課程を履修する場合に適用する。

第2 入学

第2条 入学手続及び入学者選抜方法は、研究科会議で定める。

2 通則第36条の2第1項ただし書の規定による入学に関する事項は、研究科会議で定める。

第3条 入学候補者の決定は、研究科会議で行う。

第3 転学、転科及び転専攻

第4条 通則第40条第1項の規定により本研究科に転学又は転科を志望する者には、研究科会議の議を経て、許可することがある。

2 本研究科学生で、転専攻を志望する者には、研究科会議の議を経て、許可することがある。

第4 授業、研究指導及び学修方法

第5条 科目、その単位数、授業時間数及び研究指導に関する事項は、研究科会議で定める。

2 前項の学修に関する事項は、学事要項を作成して、学生に周知させるものとする。

第6条 各学生の指導教員は、研究科会議で定める。

2 学生は、学修につき、指導教員の指導を受けなければならない。

第7条 学生は、毎学年の初めに学修する科目を定め、医学研究科長の承認を受けなければならない。

第8条 通則第44条第1項又は第53条の7第1項の規定により他の研究科等の科目を学修し、又は他の研究科において研究指導を受けようとする者は、指導教員の承認を得て、所定の期日までに医学研究科長に願出しなければならない。

2 他の研究科等の科目の学修及び他の研究科において受ける研究指導については、当該研究科等の定めるところによる。

第9条 通則第45条第1項、第2項若しくは第4項又は第53条の8第1項から第3項までの規定により他の大学の大学院の科目を学修し、又は外国の大学の大学院に留学し、その科目を学修しようとする者には、研究科会議の議を経て、許可することがある。

2 通則第46条第1項の規定により他の大学の大学院若しくは研究所等において研究指導を受け、又は休学することなく外国の大学の大学院若しくは研究所等に留学し、研究指導を受けようとする者には、研究科会議の議を経て、許可することがある。

3 前2項の規定による許可の願出については、前条第1項の規定を準用する。

第10条 次の各号に掲げる科目、単位数、研究指導及び在学年数は、研究科会議の議を経て、それぞれ修士課程、博士後期課程、博士課程又は専門職学位課程の修了に必要な科目、単位数、研究指導又は在学年数として認定することができる。

(1) 転学、転科又は転専攻前に、本学又は他の大学の大学院で学修した科目、単位数、受けた研究指導及び在学年数の一部又は全部

(2) 第8条第1項の規定により学修した科目、単位数及び受けた研究指導の一部又は全部

(3) 前条第1項又は第2項の規定により学修した科目、単位数及び受けた研究指導の一部又は全部

(4) 通則第46条の2第1項又は第53条の9第1項の規定により本研究科に入学する前に大学院において履修した科目について修得した単位数（大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第15条において準用する大

学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第31条に定める科目等履修生として修得した単位数を含む。)の一部又は全部

- 2 前項第4号の規定により本研究科(専門職学位課程に限る。)に入学する前に大学院において履修した単位数を専門職学位課程の修了に必要な単位数として認定するときは、通則第53条の13の規定により、研究科会議の議を経て、1年を超えない範囲で専門職学位課程に在学したものとみなすことがある。

第5 試験

第11条 科目の試験の期日及び方法は、研究科会議で定める。

第6 論文等の審査、課程修了の認定等

第12条 修士論文及び博士論文の審査及び試験は、京都大学学位規程の定めるところにより、研究科会議で行う。

第12条の2 通則第53条の12第1項の規定により専門職学位課程の修了の要件として定める教育課程の履修は、専攻科目につき30単位以上修得し、かつ、特定の課題についての研究の成果を認定されることとする。

- 2 前項の特定の課題についての研究の成果の審査及び試験は、研究科会議で行う。

第13条 修士課程、博士後期課程、博士課程及び専門職学位課程修了の認定は、研究科会議で行う。

第14条 通則第57条の規定により学位の授与を申請した者の学識の確認は、専攻学術に関する試問のほか、外国語1か国語の試問を課する。

- 2 前項の規定による試問は、筆答及び口頭により行う。ただし、研究科会議の議を経て、他の方法によることができる。

- 3 第1項に規定する者に係る提出論文の審査及び試験は、博士後期課程及び博士課程における論文の審査及び試験と同一の手続による。

第15条 本研究科の博士後期課程に所定の年限在学し、必要な研究指導を受けて退学した者又は本研究科の博士課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けて退学した者が、通則第57条の規定により学位の授与を申請したときは、研究科会議の議を経て、前条第1項に規定する学識確認のための試問を免除することができる。

第7 外国学生、委託生、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、特別研究学生及び特別交流学生

第16条 外国学生、委託生、科目等履修生又は聴講生として入学を志望する者には、選考のうえ、研究科会議の議を経て、許可することがある。

- 2 通則第63条第1項の規定による特別聴講学生、同条第2項の規定による特別研究学生又は同条第3項の規定による特別交流学生として入学を志望する者には、研究科会議の議を経て、許可することがある。

附 則 [中間の改正規程の附則は、省略した。]

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

◆社会健康医学系専攻について

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/>)

1. 本専攻の概要

社会健康医学系専攻の使命は、医学・医療と社会・環境とのインターフェースを機軸とし以下の活動とその相互作用を通じて、人々の健康と福祉を向上させることである。

○教育 (Teaching)

社会健康医学に関わる実務、政策、研究、教育において専門的かつ指導的役割を身につける幅広い教育を行う。

○研究 (Research)

人々の健康に関わる経済、環境、行動、社会的要因についての知識を深め、新しい知識と技術を生み出す。

○成果の還元 (Translating Research into Practice and Policy)

その成果を健康・医療に関わる現実社会の実践方策と政策に還元する。

○専門的貢献 (Professional Practice)

専門の知識と技術を持って、個人・組織・地域・国・世界レベルで貢献する。

健康に関する問題は非常に広い範囲にわたっており、本専攻の教員、学生のテーマや専門性も多岐に渡っている。本専攻には、定量的評価に不可欠な疫学、統計に関する基礎領域から、ゲノムや環境とのかかわり、医療の質の評価や経済的評価、倫理的側面、社会への健康情報の発信、健康増進と行動変容、社会とエイズ、健康政策と国際社会との関わりなど、さまざまな教育・研究を推進する分野が設置されている。

2. 教育課程

本専攻は、専門職学位課程（実務者レベル）2年と博士後期課程（研究者、教育者レベル）3年に区分され、専門職学位課程は、さらに、基幹課程である2年制 MPH コースをはじめ、1年制 MPH コース、臨床研究者養成（MCR）コース（1年制）、遺伝カウンセラーコース（2年制）を含めて4コースに分かれている。

教育内容として、下記のコア5領域が定められており、これらの領域を構成する科目を、必修（コア領域1、2）、選択必修（コア領域3、4、5）と指定している。いずれのコースでも5領域から最低1科目（コア領域1は2科目）の履修を必要とする。

区分		科目コード	科目名	責任者	単位	備考
MPH コア 5 領域	コア領域 1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	中山	1	必修
		H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	福原	1	必修
	コア領域 2	H001000	医療統計学	佐藤	2	必修
	コア領域 3	H070000	感染症疫学	木原	1	
		H071000	環境衛生学	小泉	1	
	コア領域 4	H097000	医療政策・マネジメントⅠ	今中	1	
		H073000	健康政策・行政管理学	里村	1	
		H109000	医薬政策・行政	川上	1	後期
		H090000	医療評価・経済評価	今中	2	
	コア領域 5	H075000	行動科学	古川	1	
H076000		基礎医療倫理学	小杉	1		
H077000		医学コミュニケーション基礎	岩隈	1		

平成26年度以前開講の「疫学」は、「疫学Ⅰ（疫学入門）」及び「疫学Ⅱ（研究デザイン）」に読み替える。

平成25年度以前開講の「医薬品政策・行政」は「医薬政策・行政」に読み替える。

医学研究科人間健康科学系専攻、公共政策大学院、経営管理大学院、法学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、工学研究科、「グローバル生存学大学院連携プログラム」、「政策のための科学プログラム」、「グローバヘルス学際融合ユニット」の予め定められた科目の履修・単位取得が可能。ただし、修了に必要な単位とはならない。具体的にはシラバス巻末およびホームページを参照。

URL: <http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/syllabus.html>

(1) 専門職学位課程

専門職学位課程に2年以上(2年制コース)もしくは1年以上(1年制コース)在学し、下記の30単位以上を修得し、本専攻が定める教育課程を修了することが「社会健康医学修士(専門職)」取得の要件である。

なお、1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、原則42単位とする。ただし、特別コース・特別プログラム(1年制MPHコース、臨床研究者養成(MCR)コース、遺伝カウンセラーコース、知的財産経営学プログラム)の履修者が、特別コース・特別プログラムにおける必修科目等を履修する場合は超過を認める。その他、やむを得ない事情により履修登録上限単位数を緩和する必要がある場合には、指導教員の申し出により超過を認めることがある。

[2年制MPHコース]

科目	「医療系」出身者*	「医療系」以外出身者
MPH コア5領域(コア領域1-5のすべての領域を含む)	10	10
MPH 必修(医学基礎I・II、臨床医学概論)	—	6
課題研究	4	4
選択(特別プログラムで指定されるものを含む)	16	10
計	30	30

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部などの医療系学部の出身者

上記以外(生物系等学部、医療系の短期大学及び医療系の専門学校出身者)で「医療系」出身者として認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

課題研究：専門職学位課程共通。テーマ毎に、最も適切な研究室に配属し、研究アイデアから研究プロトコルの作成、データ収集と解析、結果の考察などを経験し、プレゼンテーションを行う。

既修得単位の認定：他大学院における取得単位について、コア領域1～5に相当する科目を対象に最大10単位以内を既修得単位として認定する場合がある。認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

[専門職学位課程特別コース・特別プログラム]

本専攻は、下記の特別コースを有する。これらの特別コースは入試枠が異なり、入学後にコース間の移動はできない。加えて、下記の如く、本専攻が修了を認める特別プログラムがある。

これらの詳細は、別途、「◇専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて」に後述する。

<特別コース>

- 1) 1年制MPHコース (1年で修了しうるが、修了要件は上記の2年制MPHコースと同じ。)
- 2) 臨床研究者養成(MCR)コース
- 3) 遺伝カウンセラーコース

<特別プログラム>

- 1) 知的財産経営学プログラム
- 2) 医療経営ヤングリーダー・プログラム
- 3) 産業毒性学管理者プログラム
- 4) 医療統計専門職プログラム
- 5) ゲノムインフォマティシャンプログラム

(2) MPH-DrPH 課程について

出願資格：1) 修士相当の学位を有する者 あるいは、2) 医師・歯科医師の内、2年以上の臨床経験あるいは卒後臨床研修を修了した者。

上記出願資格1)、2)の条件を満たし、専門職学位課程に引き続き本専攻博士後期課程に進学を希望する者で、学部あるいは修士の履修成績、入学試験および専門職学位課程入学後の成績も優秀であり、意欲と能力のある者は、審査を受け、本専攻博士後期課程の受験資格を認定された場合、専門職学位課程の修了要件を満し、かつ上記の博士後期課程入学試験に合格することにより、1年次修了時点で博士後期課程に進学できる。

受験資格の認定を希望する者は、前期にコア科目8単位以上を取得(見込)したうえで、MPH-DrPH課程の願書、志望理

由書、指導教員の推薦書(注)と、修士相当の者は、1) 修士学位の証明と修士および学部の成績、あるいは医師・歯科医師の者は、2) 臨床経験あるいは卒後臨床研修とも在職証明書、を添えて8月21日(金)までに教務・学生支援室大学院教務掛に提出すること(認定を希望する者は、提出に先立ち、教務・学生支援室大学院教務掛に事前に相談すること)。

本課程は、あくまで、博士後期課程への進学を前提としたものであり、進学しない場合は、1年次修了は無効となる。

(注) 課題研究に関する情報(課題名、プロトコール、進捗状況を示す資料等)は必須ではないが、推薦書に添付することができる。

(3) 博士後期課程

博士後期課程に3年以上在学し、研究指導を受け、下記の所定単位を修得し、博士論文の審査および試験に合格することが「博士(社会健康医学)」取得の要件である。

科目		本専攻専門職学位課程修了者以外		本専攻専門職学位課程修了者
		「医療系」出身者※	「医療系」以外出身者	
博士課程セミナー		6	6	6
専門職学位課程 授業科目	MPH コア5領域 (コア領域1-5のすべての領域を含む)	7 (領域1と領域2は、それぞれ2単位)	7 (領域1と領域2は、それぞれ2単位)	—
	MPH 必修 (医学基礎 I・II、臨床医学概論)	—	6	—
計		13	19	6

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部などの医療系学部の出身者

上記以外(生物系等学部、医療系の短期大学及び医療系の専門学校出身者)で「医療系」出身者として認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

平成27年度 社会健康医学系専攻 専門職学位課程 全授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	レベル
			前期	後期				
MPH コア 必修	H118000	領域1 疫学Ⅰ(疫学入門)	○*		中山教授	1		基礎
	H119000	領域1 疫学Ⅱ(研究デザイン)	○前半		福原教授	1		基礎
	H001000	領域2 医療統計学	○		佐藤教授	2		基礎
MPH 選択 必修	H070000	領域3 感染症疫学	○後半		木原教授	1		基礎
	H071000	領域3 環境衛生学	○前半		小泉教授・原田准教授	1		基礎
	H097000	領域4 医療政策・マネジメントⅠ	○前半		今中教授	1		基礎
	H073000	領域4 健康政策・行政管理学	○後半		里村准教授	1		基礎
	H109000	領域4 医薬政策・行政		○前半	川上教授	1		中級
	H090000	領域4 医療評価・経済評価	○		今中教授	2		中級
	H075000	領域5 行動科学	○前半		古川教授	1		基礎
	H076000	領域5 基礎医療倫理学	○前半		小杉教授	1		基礎
	H077000	領域5 医学コミュニケーション基礎	○前半		岩隈准教授	1		基礎
MPH 必修	H006000	医学基礎Ⅰ	○		萩原講師	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。(医療系は選択)	基礎
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	教務委員会	2		
	H008000	臨床医学概論		○	渡辺講師・木村講師	2		
	(別表)	課題研究	2年次		所属分野の指導員	4		
MPH 選択	H009000	社会疫学Ⅰ	○		木原准教授	2		応用
	H011000	医療統計学実習	○		佐藤教授	2		
	H122000	観察疫学研究	○後半		福原教授	1		基礎
	H123000	研究デザイン演習	○		福原教授	1		基礎
	H093000	文献検索法	○前半		中山教授	1		基礎
	H094000	文献評価法	○後半		中山教授	1		基礎
	H100000	医療政策・マネジメントⅡ	○後半		今中教授	1		中級
	H014000	中毒学入門	○		小泉教授・原田准教授	2		基礎
	H098000	医学コミュニケーション演習		○	岩隈准教授	2		中級
	H084000	観察研究の統計的方法	集中		佐藤教授	2		応用
	H112000	臨床試験	○		田中司朗講師	2		中級
	M001000	アントレプレナーシップ	○		寺西教授	2		基礎
	M006000	技術経営学概論		○	寺西教授	2		基礎
	M017000	知的財産経営学基礎	○		早乙女准教授	2		基礎
	M014000	創業技術・ビジネス概論	○		山本講師	2		基礎
	M021000	アントレプレナーシップ特論	集中		早乙女准教授	2		応用
	M024000	特許法特論・演習(前期)	○		藤井講師	2		基礎
	N015000	遺伝医療と倫理・社会	○*		小杉教授	2		基礎
	H040000	基礎人類遺伝学	○		小杉教授	2		基礎
	N021000	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	○*		小杉教授	3		基礎
	N017000	遺伝医学特論(集中講義)	2年次		小杉教授	2		応用
	H061000	社会健康医学課外実習	集中		所属分野の指導員等	1-2	インターンシップ	—
	H019000	社会疫学Ⅱ		○	木原准教授	2		応用
	H088000	環境・感染論		○*	西沢教授	2		中級
	H020000	人間生態学		○	松林教授	2		基礎
	H021000	交絡調整の方法		○	佐藤教授	2		中級
	H022000	解析計画実習		○	佐藤教授	2		応用
	H027000	健康政策学		○前半	里村准教授	2		基礎
	H028000	国際保健学		○後半	里村准教授	2		基礎
	H030000	健康情報学		○	中山教授	2		中級
	H029000	中毒学		○	小泉教授・原田准教授	2		中級
	H032000	ベンチトレーニングコース(On the Bench Training Course)		○	小泉教授・原田准教授	2		応用
	H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2		応用
	H079000	医薬品の開発と評価		○後半	川上教授	1		中級
	H086000	EBM 研究概論		○	上嶋教授・佐藤教授	2		応用
	M004000	契約実務演習		○	阿部教授	2		基礎

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	レベル
			前期	後期				
MPH 選択	M007000	知的財産法演習		○	當麻講師	2		中級
	M025000	特許法特論・演習（後期）		○	田中順也講師	2		中級
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田教授	2		応用
	N018000	医療倫理学各論		○*	小杉教授	2		応用
	H120000	統計遺伝学基礎Ⅰ	○		山田教授	2		
	H121000	統計遺伝学基礎Ⅱ		○	山田教授	2		
	H103000	医療社会学・基礎	○後半		岩隈准教授	1		基礎
	H063000	フィールドワーク		通年集中*	長岡PRO支那員中山教授	2		中級
	H107000	Eヘルス概論		○*	高橋講師	1		基礎
	H115000	ヘルスサイエンス研究の進め方	○		中山教授	1		基礎
限定 科目	H082000	医療経営特別カリキュラムⅠ	集中		今中教授	2	医療経営ヤングリ ーガー・プログラム 限定	応用
	H083000	医療経営特別カリキュラムⅡ		集中	今中教授	2		応用
	H053000	医療経営ケーススタディ	通年・集中		今中教授	2		応用
	K026000	臨床研究計画法Ⅰ	○		福原教授	1	MCR 限定必修	応用
	K027000	臨床研究計画法Ⅱ		○	福原教授	1	MCR 限定必修	応用
	K028000	臨床研究計画法演習Ⅰ	○		福原教授	1	MCR 限定必修	応用
	K029000	臨床研究計画法演習Ⅱ		○	福原教授	1	MCR 限定必修	応用
	K022000	臨床統計学特論	—	—	（不開講）	1	MCR 限定選択	中級
	K016000	系統的レビュー		通年*	古川教授	2	MCR 限定選択	応用
	N022000	基礎人類遺伝学演習		1年次	小杉教授	1	GC 限定	応用
	N006000	臨床遺伝学演習（ロールプレイ演習）		1年次*	小杉教授	1	GC 限定	応用
	N020000	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論		通年*	浦尾講師	3	GC 限定	基礎
	N007000	遺伝カウンセリング演習Ⅰ	1年次（隔週）		小杉教授	2	GC 限定	基礎
	N008000	遺伝カウンセリング演習Ⅱ	2年次（隔週）		小杉教授	2	GC 限定	応用
	N009000	遺伝カウンセリング実習Ⅰ	1年次		小杉教授	2	GC 限定	基礎
	N010000	遺伝カウンセリング実習Ⅱ	2年次		小杉教授	4	GC 限定	応用
	K020000	EBM診療ガイドライン特論		○	中山教授	1	MCR 限定選択	応用
	K025000	臨床研究データ管理学		○	田中司朗講師	1	MCR 限定必修	応用

MCR＝臨床研究者養成コース、知財＝知的財産経営学プログラム、GC＝遺伝カウンセラーコース、

限定科目：該当する特別プログラムの者に限り履修可。

平成26年度以前開講の「疫学」は「疫学Ⅰ（疫学入門）」及び「疫学Ⅱ（研究デザイン）」に読み替える。

平成26年度以前開講の「研究プロトコール作成マネジメント法Ⅰ・Ⅱ」は「臨床研究計画法Ⅰ・Ⅱ」に読み替える。

平成25年度以前開講の「医薬品政策・行政」は「医薬政策・行政」に読み替える。

平成24年度開講の「ゲノム疫学のためのインフォマティクスⅠ、Ⅱ」、平成25年度開講の「統計遺伝学Ⅰ、Ⅱ」、平成26年度開講の「オミックス統計学入門Ⅰ、Ⅱ」は、「統計遺伝学基礎Ⅰ、Ⅱ」に読み替える。

平成25年度以前開講の「遺伝カウンセラーのためのコミュニケーション概論」は「遺伝カウンセラーコミュニケーション概論」に読み替える。

〔期間〕 *マークは、開講日注意。〔レベル〕 基礎：予備知識を必要としないレベル、中級：一定の予備知識や経験を求めるレベル、応用：社会での実践や研究へ応用できるレベル、空欄：各シラバス参照

（別表）課題研究及び博士課程セミナー科目コード

研究分野	科目コード		
	課題研究（専門職学位課程）	[MCR]	博士課程セミナー（博士後期課程）
医療統計学	1001000		J001000
医療疫学	1002000	L002000	J002000
薬剤疫学	1003000	L003000	J003000
ゲノム情報疫学	1004000		J004000
医療経済学	1005000	L005000	J005000
医療倫理学	1006000	L006000	J006000
健康情報学	1007000	L007000	J007000
医学コミュニケーション学	1016000		J016000
環境衛生学	1009000		J009000
健康増進・行動学	1010000	L010000	J010000

予防医療学	1011000	L011000	J011000
社会疫学	1012000		J012000
健康政策・国際保健学	1013000		J013000
環境生態学	1014000		J014000
人間生態学	1015000		J015000
知的財産経営学	M018000		
遺伝医療学(遺伝カウンセラー)	N901000		

◇専門職学位課程特別コース及び特別プログラムについて

<特別コース>

I. 臨床研究者養成（MCR）コース

(<http://www.mcrkyoto-u.jp/>)

(1) 学習達成目標

- ① 臨床研究を支える種々の基本理論、知識、実践技術に習熟すること。
- ② 自分の臨床上の疑問に基づいた臨床研究を計画し、研究プロトコルの作成、研究の実施・マネジメント、得られたデータの基本的な解析処理、結果の解釈、論文にまとめる、などの一連の作業を独力でできる。
- ③ 自分の臨床研究の計画・実施・解析・解釈の過程で生じる疑問について、適切な時期に、適切な専門家に、適切な相談・照会ができる。

(2) 本コースのカリキュラムの特徴

① 集中的な授業・実習

本コースでは、臨床研究の基本（理論、知識、方法、実践）を1年間で体系的に学習できるよう全体のカリキュラムが構成されている。加えて、本コース推奨科目以外にも社会健康医学系専攻が提供する殆ど全ての科目を履修することができる。なお、学生が入学前に取得した科目があり、既修得単位として認められれば履修が免除される。

② 個別指導（メンタリング）の重視

本コースの学生には、入学時に1～2名の個別指導担当教員（メンター）を決定し、この担当教員が責任を持って担当学生の研究プロトコルの作成やデータの解析の指導、および実際の研究計画実施上の指導を行なう。研究の種類にもよるが、必要に応じて2名が指導教員となることもある。この個別指導は、本コース在学期間のみでなく、双方の合意のもとに、修了後も、研究実施、結果解析、論文作成まで継続的に行うことを念頭につくられている。指導教員の決定にあたっては、学生本人と本コース教員の間で協議を行ない決定する。

③ 修了時の課題研究発表と試問

本コース修了時に、全ての学生は、自分の臨床上の疑問に基づく臨床研究を完成させ（研究プロトコルも認める）、発表会で試問を受け、合格する必要がある。

なお専門職大学院のため、修士論文などは課さない。

(3) 修了要件

科目	単位数
MPH コア5領域（コア領域1～5のすべての領域を含む7単位以上*）およびMCR 必修科目	18
選択科目	8
課題研究	4
計	30

*詳細は、「MCRコース授業科目一覧表」を参照。

平成27年度以降入学者は、上記を適用する。

照会先：臨床情報疫学分野および各担当分野

平成27年度 社会健康医学系専攻 臨床研究者養成（MCR）コース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	
			前期	後期				
MCR 必修	K026000	臨床研究計画法Ⅰ	○		福原教授	1	MCR 限定	
	K027000	臨床研究計画法Ⅱ		○	福原教授	1	MCR 限定	
	K028000	臨床研究計画法演習Ⅰ	○		福原教授	1	MCR 限定	
	K029000	臨床研究計画法演習Ⅱ		○	福原教授	1	MCR 限定	
	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	【コア領域2】	
	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	○		中山教授	1	【コア領域1】	
	H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	○		福原教授	1	【コア領域1】	
	H122000	観察疫学研究	○		福原教授	1		
	H123000	研究デザイン演習	○		福原教授	1		
	H090000	医療評価・経済評価	○		今中教授	2	【コア領域4】	
	H094000	文献評価法	○		中山教授	1		
	H112000	臨床試験	○		田中司朗講師	2		
	K025000	臨床研究データ管理学		○	田中司朗講師	1	MCR 限定	
	-	コア領域3の科目を最低1単位*				1	【コア領域3】	
	-	コア領域5の科目を最低1単位**				1	【コア領域5】	
		L002000	課題研究：MCR（医療疫学）	通年		指導教員	4	指導教員が開講する課題研究を履修
		L003000	課題研究：MCR（薬剤疫学）					
	L005000	課題研究：MCR（医療経済学）						
	L006000	課題研究：MCR（医療倫理学）						
	L007000	課題研究：MCR（健康情報学）						
	L011000	課題研究：MCR（健康増進・行動学）						
	L010000	課題研究：MCR（予防医療学）						
MCR 推奨 選択	K016000	系統的レビュー	通年†		古川教授	2	MCR 限定選択	
	K020000	EBM 診療ガイドライン特論		○	中山教授	1	MCR 限定選択	
	K022000	臨床統計学特論	—	—	（不開講）	1	MCR 限定選択	
	H009000	社会疫学Ⅰ	○		木原准教授	2		
	H011000	医療統計学実習	○		佐藤教授	2		
	H076000	基礎医療倫理学	○		小杉教授	1	【コア領域5】	
	H075000	行動科学	○		古川教授	1	【コア領域5】	
	N018000	医療倫理学各論		○	小杉教授	2		
	H019000	社会疫学Ⅱ		○	木原准教授	2		
	H020000	人間生態学		○	松林教授	2		
	H021000	交絡調整の方法		○	佐藤教授	2		
	H022000	解析計画実習		○	佐藤教授	2		
	H030000	健康情報学		○	中山教授	2		
	H109000	医薬政策・行政		○	川上教授	1	【コア領域4】	
	H079000	医薬品の開発と評価		○	川上教授	1		
	H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査		○	川上教授	2		
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田教授	2		

*コア領域3の科目とは、感染症疫学（木原教授）および環境衛生学（小泉教授）であり、修了要件としていずれかの科目から1以上の単位取得が必要。

**コア領域5の科目とは、行動科学（古川教授）、基礎医療倫理学（小杉教授）および医学コミュニケーション基礎（岩隈准教授）であり、修了要件としていずれかの科目から1以上の単位取得が必要。

†開講日注意

※上記以外のシラバスに掲載されている MPH 科目（他のコース等の限定科目を除く）を履修することができる（開講日時が同一の科目を同時に履修登録することは不可）。

II. 遺伝カウンセラーコース

(<http://sph.med.kyoto-u.ac.jp/class-06.html>)

(1) 遺伝カウンセラーコースの概要

ゲノム・遺伝情報を利用した医療、遺伝薬理学情報に基づいたテーラーメイド医療に対応できる高度な専門的知識と技術ならびにコミュニケーション能力をもち、患者・家族の立場を理解して新医療とのインターフェースとなりうる人材を総合的に養成する。

(2) 遺伝カウンセラーコースの特徴

- ① 充実したスタッフ：この分野でトップレベルの多数の指導者が社会健康医学系専攻の教員とともに充実した専門教育を行う。
- ② 社会健康医学の幅広い素養：社会健康医学コア科目を履修する。修了時には、社会健康医学修士(専門職)(Master of Public Health; MPH)の学位が授けられる。
- ③ 充実した実習：現場での実習に特に重点を置いており、京都大学医学部附属病院遺伝子診療部などでの充実した実習が可能である。
- ④ 資格認定試験受験資格：遺伝カウンセラーコース：コース終了後、「認定遺伝カウンセラー」資格認定試験受験資格が得られる。

(3) 修了要件

科目	「医療系」 出身者※	「医療系」 以外出身者
MPH コア 5 領域 (コア領域 1 - 5 のすべての領域を含むこと)	7	7
医学基礎 I・II、臨床医学概論	—	6
遺伝カウンセラーコース必修	30	30
課題研究	4	4
合計	41	47

※「医療系」出身者：医学部・看護学部・歯学部・薬学部などの医療系学部の出身者

上記以外（生物系等学部、医療系の短期大学及び医療系の専門学校出身者）で「医療系」出身者として認定を希望する場合は、入学時に申請が必要である。

平成 27 年度以降入学者は、上記を適用する。

(参考) 課題研究：

初年度の学習や実習経験に基づいて専門領域の発展にふさわしいテーマを見出し、テーマごとにもっとも適切な教員の指導のもと、遺伝医療および遺伝カウンセリングの臨床現場の質の向上に資するとともに、クライアントのQOLの改善につながるような研究を行い、とりまとめを行う。

照会先：遺伝医療学分野

平成27年度 社会健康医学系専攻 遺伝カウンセラーコース 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		担当教員	単位	備考
			前期	後期			
コア領域1	H118000	疫学Ⅰ (疫学入門)	○		中山教授	1	必修
	H119000	疫学Ⅱ (研究デザイン)	○		福原教授	1	必修
コア領域2	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	必修
コア領域3	H070000	感染症疫学	○		木原教授	1	選択必修
	H071000	環境衛生学	○		小泉教授	1	
コア領域4	H097000	医療政策・マネジメントⅠ	○		今中教授	1	
	H073000	健康政策・行政管理学	○		里村准教授	1	
	H109000	医薬政策・行政		○	川上教授	1	GC必修
コア領域5	H075000	行動科学	○		古川教授	1	選択必修:推奨
	H076000	基礎医療倫理学	○		小杉教授	1	GC必修
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○		岩隈准教授	1	選択必修:推奨
MPH必修	H006000	医学基礎Ⅰ	○		萩原講師	2	「医療系」以外の出身者のみ必修。
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	教務委員会	2	
	H008000	臨床医学概論		○	渡邊講師・木村講師	2	
	N901000	課題研究 (遺伝カウンセラー)	2年次		所属分野の指導教員	4	
GC必修	H040000	基礎人類遺伝学	1年次		小杉教授	2	
	N015000	遺伝医療と倫理・社会	1年次		小杉教授	2	
	N021000	臨床遺伝学・遺伝カウンセリング	1年次		小杉教授	3	
	N022000	基礎人類遺伝学演習		1年次	小杉教授	1	GC限定
	N006000	臨床遺伝学演習		1年次	小杉教授	1	GC限定
	N018000	医療倫理学各論		1年次	小杉教授	2	
	N017000	遺伝医学特論 (集中講義)	2年次		小杉教授	2	
	N020000	遺伝カウンセラーコミュニケーション概論	1年次		浦尾講師	3	GC限定
	N007000	遺伝カウンセリング演習1	1年次 (隔週)		小杉教授	2	合同カンファレンス
	N008000	遺伝カウンセリング演習2	2年次 (隔週)		小杉教授	2	合同カンファレンス
	N009000	遺伝カウンセリング実習1	1年次		小杉教授	2	GC限定
	N010000	遺伝カウンセリング実習2	2年次		小杉教授	4	GC限定
	H093000	文献検索法	○		中山教授	1	
	H094000	文献評価法	○		中山教授	1	
	M022000	ゲノム科学と医療		1年次	松田教授	2	
GC推奨 選択	H009000	社会疫学Ⅰ	○		木原准教授	2	
	H019000	社会疫学Ⅱ		○	木原准教授	2	
	H120000	統計遺伝学基礎Ⅰ	○		山田教授	2	
	H121000	統計遺伝学基礎Ⅱ		○	山田教授	2	

平成26年度以前開講の「疫学」は「疫学Ⅰ (疫学入門)」及び「疫学Ⅱ (研究デザイン)」に読み替える。

平成25年度以前開講の「医薬品政策・行政」は「医薬政策・行政」に読み替える。

平成25年度以前開講の「遺伝カウンセラーのためのコミュニケーション概論」は「遺伝カウンセラーコミュニケーション概論」に読み替える。

※ GC = 遺伝カウンセラーコース

<特別プログラム>

I. 知的財産経営学プログラム

(1) 知的財産経営学プログラムの概要

大学の研究成果をもとに新規産業を興し経営するには、これまでの日本の企業風土で蓄積された企業文化、経営のノウハウとは異なるものが要求される。その一つが技術経営であり、特に知的財産を最大限に活用する知的財産戦略を担うディレクター（知的財産ディレクター）の仕事である。ここで期待される人材は、複数の異なるベクトルを持つ必要がある。

- ① 自然科学の分野において、医学研究科で先端医学領域の研究を実施している教員や産業界における探索・開発研究の経験が豊富な教員による講義により、トップレベルの科学的な知識とその活用にあたっての社会的受容性の知識を習得してもらう。
- ② 人文・社会健康医学系専攻科学の分野において、知的財産権6法やその他社会科学の基礎は、各専門分野により選ばれた教員の講義から知識を学ぶと共に、実業界でのキャリアを持つ講師（ベンチャーキャピタル分野）から、企業会計や知的財産の市場評価・流通の実務的なスキルと知識を学ぶ。
- ③ 上記により習得した知識をベースとして、実務経験を通じた知識の深化と、即戦力としての実務能力の養成を行う。具体的には、京都大学医学領域拠点業務との連携やエクスターンシップの実施も含めて、テーマ毎に適切な指導教員のもとで研究者とも連携し、研究成果の権利化と活用の実務を手伝う。実施項目としては、発明の抽出、周辺特許調査、明細書作成、ビジネスプラン作成、契約実務作業等を経験する。これらにより発明の開示から知的財産としての活用までの全体の流れを把握し、出願妥当性の判断に至る経緯の考察や産業界との連携における問題点と解決法に関する考察などのプレゼンテーションまで実際に経験させる。

これらにより専門職大学院として問題解決能力、実践・実務能力を身に付け、生命科学分野における知的財産経営、技術経営に関する高度な専門性を有する人材養成のための教育研究を行う。

(2) 修了要件

本プログラムの修了要件は、2年以上在学し、下記の30単位を修得し、本プログラムが定めるカリキュラムを修了することである。

	「医学部医学科」出身者	「医学部医学科」以外出身者
MPH コア5領域(コア領域1-5のすべての領域を含む)	7	7
知的財産領域必修	1 2	1 2
課題研究(知的財産経営学)	4	4
医学領域選択必修	3 (学部取得単位の認定も一部可)	3
選択	4	4
計	30	30

(参考) 課題研究：テーマ毎に最も適切な指導教員のもとで、発明の抽出、特許調査、明細書作成、特許出願、ビジネスプラン作成、契約実務などを行い、プレゼンテーションまで実際に経験させる。

照会先：知的財産経営学分野

平成27年度 社会健康医学系専攻 知的財産経営学プログラム 授業科目一覧表

区分	科目コード	科目名	期間		主担当教員	単位	備考	
			前期	後期				
コア領域1	H118000	疫学Ⅰ（疫学入門）	○		中山教授	1	必修	
	H119000	疫学Ⅱ（研究デザイン）	○		福原教授	1	必修	
コア領域2	H001000	医療統計学	○		佐藤教授	2	必修	
コア領域3	H070000	感染症疫学	○		木原教授	1	選択必修	
	H071000	環境衛生学	○		小泉教授	1		
コア領域4	H097000	医療政策・マネジメントⅠ	○		今中教授	1		
	H073000	健康政策・行政管理学	○		里村准教授	1		
	H109000	医薬政策・行政		○	川上教授	1		
コア領域5	H075000	行動科学	○		古川教授	1		
	H076000	基礎医療倫理学	○		小杉教授	1		
	H077000	医学コミュニケーション基礎	○		岩隈准教授	1		
MPH 必修	H006000	医学基礎Ⅰ	○		萩原講師	2		「医療系」以外の出身者のみ必修。
	H007000	医学基礎Ⅱ		○	教務委員会	2		
	H008000	臨床医学概論		○	渡辺講師・林講師	2		
	M018000	課題研究（知的財産経営学）	2年次		各指導教員	4		
知的財産領域必修	M001000	アントレプレナーシップ	○		寺西教授	2	一部科目で集中講義や不規則開講の形式をとるものもあり。各シラバスなどを確認すること。	
	M006000	技術経営学概論		○	寺西教授	2		
	M024000	特許法特論・演習(前期)	○		藤井講師	2		
	M025000	特許法特論・演習(後期)		○	田中順也講師	2		
	M004000	契約実務演習		○	阿部教授	2		
	M007000	知的財産法演習		○	當麻講師	2		
医学領域	M008000	病理学総論 ^(医)		(春学期)	松田(道)教授	2	医学部医学科出身者は、「医薬品の開発と評価」は必修。他の科目は学部取得単位の認定も可能。その他の出身者の取得単位推奨科目は、下表参照。	
	M009000	薬理学 ^(医)		(秋学期)	渡邊教授	2		
	M011000	生理学 ^(医)		(冬学期)	岩井教授	2		
	M012000	分子細胞生物学 ^(医)		(冬学期)	岩田教授	2		
	M013000	発生学 ^(医)		(冬学期)	篠原教授	2		
	N017000	遺伝医学特論（集中講義）	2年次		小杉教授	2		
	H079000	医薬品の開発と評価		○	川上教授	1		
選択	M017000	知的財産経営学基礎	○		早乙女准教授	2		
	M014000	創薬技術・ビジネス概論	○		山本講師	2		
	M021000	アントレプレナーシップ特論	集中		早乙女准教授	2	夏期集中講義	
	M022000	ゲノム科学と医療		○	松田(文)教授	2		

注1：^(医)は医学部医学科の科目

注2：選択科目にはこの他にも、経済学研究科、法学研究科の関連科目を個別に単位認定する可能性があるため、指導教員に確認すること。

平成26年度以前開講の「疫学」は「疫学Ⅰ（疫学入門）」及び「疫学Ⅱ（研究デザイン）」に読み替える。

平成25年度以前開講の「医薬品政策・行政」は「医薬政策・行政」に読み替える。

※ 医学領域選択必修 出身別の単位取得推奨科目

○：取得すべき科目、△：できるだけ取得すべき科目

科目名	生命科学系出身者 ^(注)	その他の出身者
病理学総論	○	△
薬理学	○	△
生理学	△	△
分子細胞生物学	△	△
発生学	△	△
医薬品の開発と評価	○	○
遺伝医学特論（集中講義）	△	△

(注) 生命科学系の学部学科の例：理学部生物学科・生化学科、薬学部、歯学部、医学部保健学科、獣医学部、農学部応用生命科学科・食品生物科学科・理工学部生命科学科・生物工学科など

II. 医療経営ヤングリーダー・プログラム

(1) 医療経営ヤングリーダー・プログラムの概要

医療経営ヤングリーダー・プログラムは、高度専門職である医療経営幹部候補生およびこの領域の将来のリーダーを育成するためのプログラムであり、財務、会計、経営分析、市場分析、組織論・組織行動、組織文化の把握、質保証・業務改善、情報システム、法と倫理、関連ビジネス、政策・制度などについて学び、新たな教材や教育方法の創造にも参加し、経営実力者の人格と出会い、現場に身を置いて演習、調査、ケーススタディ等を行う。

当プログラムは、面接、審査の上、経営の素養と意欲のある人材、各年若干名を対象に開講する。ケーススタディに加えて、プロジェクト形式で、経営実例に直結する調査、分析、支援活動などを進め、情報収集、分析、妥当な計画立案、説得力ある討議、環境適応、変革・創造、行動の力を高めるべく訓練を行う。これらを通じて現実の医療経営に大いに貢献できる人材の基盤作りを行い、医療機関の将来の経営幹部、そして我が国の医療経営界において将来に主導的役割を担いようとする人材の養成をめざす。

(2) 医療経営ヤングリーダー・プログラムの修了要件

- ① 社会健康医学系専攻専門職学位課程の修了のための要件を満たすこと
- ② 下記を全て履修すること

区分	科目コード	科目名	単位	時期
コア領域4	H097000	医療政策・マネジメントⅠ	1	前期前半
MPH 選択	H100000	医療政策・マネジメントⅡ	1	前期後半
コア領域4	H090000	医療評価・経済評価	2	前期
限定	H082000	医療経営特別カリキュラムⅠ	2	前期
限定	H083000	医療経営特別カリキュラムⅡ	2	後期
限定	H053000	医療経営ケーススタディ	2	通年
MPH 必修	I005000	課題研究（医療経済学分野）	4	—

- 社会健康医学系専攻の多くの科目の選択を自ら設計して積極的に履修することを強く推奨する。
(年間合計 50 単位まで可能)
 - さらに、経営管理大学院、公共政策大学院、または経済学研究科の科目を履修することを強く推奨する。
 - また、当該分野でのセミナーに積極的に参加することが求められる。
- ③ 課題研究で医療経営に関わる課題に取り組むこと

照会先：医療経済学分野

III. 産業毒性学管理者プログラム

(1) 産業毒性学管理者プログラムの概要

本プログラムは、専門職学位取得者のうち、一定の内容のコースワークを履修したのに対して、専攻として「産業毒性学管理者」修了を認めるものである。所属する分野・コースを問わない。

リスク管理は、従来は環境汚染物質による健康影響を主として問題としてきたが、近年はあらゆる行政施策に関わるテクノロジー全域に拡大しつつある。本コースの最終目標は、リスク管理の基本的知識と素養を身につけることを目的とする。

(2) 産業毒性学管理者プログラムの修了要件

MPH コアで環境衛生学を履修し以下の選択科目を取ること

- ① 選択科目として下記を全て履修すること

科目コード	科目名	主担当教員	単位	時期
H014000	中毒学入門	小泉・原田	2	前期
H029000	中毒学	小泉・原田	2	後期
H032000	ベンチトレーニングコース (On the bench training)	小泉・原田	2	後期

② 選択科目として推奨するもの

科目コード	科目名	主担当教員	単位	時期
H120000	統計遺伝学基礎 I	山田教授	2	前期
H099000	医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査	川上教授	2	後期
H079000	医薬品の開発と評価	川上教授	1	後期後半

平成 24 年度開講の「ゲノム疫学のためのインフォマティクス I」、平成 25 年度開講の「統計遺伝学 I」、平成 26 年度開講の「オミックス統計学入門 I」は、「統計遺伝学基礎 I」に読み替える。

- ③ 課題研究については、所属分野で実施すること
 ④ 社会健康医学系専攻専門職学位課程を修了すること

照会先：環境衛生学分野

IV. 医療統計専門職プログラム

(1) 医療統計専門職プログラムの概要

医療統計専門職プログラムは専門職学位取得者のうち、下記に示すコースワークを履修したものに対して、専攻として「医療統計専門職」修了を認めるものである。

疫学研究、臨床研究、医薬品開発などにおける研究・開発の初期の段階から医療統計専門家が参加することが求められており、専門家としての高い技術と倫理観を身につけることを目的とする。

本プログラムでは、国内の医療統計プログラムを有する大学間の交流に参加することを必須とする。

(2) 医療統計専門職プログラムの修了要件

① 選択科目として下記をすべて履修すること

科目コード	科目名	科目責任者	単位数	時期
H011000	医療統計学実習	佐藤	2	前期
H084000	観察研究の統計的方法*	佐藤	2	前期集中
H021000	交絡調整の方法	佐藤	2	後期
H022000	解析計画実習	佐藤	2	後期

*大阪大学医学統計学教室との合同講義

- ② 医療統計セミナーに参加、発表すること
 ③ 北里大学臨床統計学、久留米大学バイオ統計センター、総合研究大学院大学統計科学専攻（統計数理研究所）、東京理科大学経営工学専攻と合同で毎年開催している Biostatistics Network に参加すること
 ④ 社会健康医学系専攻専門職学位課程を修了すること

照会先：医療統計学分野

V. ゲノムインフォマティクスプログラム

(1) ゲノムインフォマティクスプログラムの概要

本プログラムは、専門職学位取得者のうち、一定の内容のコースワークを履修したものに対して、専攻として「ゲノムインフォマティクス」修了を認めるものである。所属する分野・コースを問わない。

次世代シーケンサなどのゲノム解析技術の爆発的進歩という状況を受けて、膨大な情報を適切に取り扱う「ゲノムインフォマティクス」としての基本的知識と素養を身につけることを目的とする。社会健康医学系専攻において遺伝カウンセラーを養成している遺伝医療学分野と幅広いゲノム解析を行っているゲノム情報疫学分野（ゲノム医学センター）の協力によるプログラムである。

(2) ゲノムインフォマティクスプログラムの修了要件

① 選択科目として下記を全て履修すること

科目コード	科目名	主担当教員	単位	時期
H120000	統計遺伝学基礎Ⅰ	山田教授	2	前期
H121000	統計遺伝学基礎Ⅱ	山田教授	2	後期
H040000	基礎人類遺伝学	小杉教授	2	前期
M022000	ゲノム科学と医療	松田教授	2	後期

平成 24 年度開講の「ゲノム疫学のためのインフォマティクスⅠ、Ⅱ」、平成 25 年度開講の「統計遺伝学Ⅰ、Ⅱ」、平成 26 年度開講の「オミックス統計学入門Ⅰ、Ⅱ」は、「統計遺伝学基礎Ⅰ、Ⅱ」に読み替える。

② 課題研究については、所属分野で実施すること

③ 社会健康医学系専攻専門職学位課程を修了すること

(参考) 関連科目：環境衛生学(コア 3)、医薬政策・行政(コア 4)、基礎医療倫理学(コア 5)、遺伝医療と倫理・社会、遺伝医学特論(2 年次)

照会先：遺伝医療学分野およびゲノム情報疫学分野